第６章　環境の保全のための措置等の再検討

６．１　環境保全措置等の見直しに係る検討結果の概要

本章では、補正評価書公表後における事業内容の一部修正、第 4 章で整理した事後調査結果及び工事実施状況を踏まえ、環境保全措置等の見直しの必要性について検討した。

６．１．１　大気汚染

建設機械及び工事用車両の稼働台数・期間は補正評価書で想定した範囲内であり、一般的な環境保全対策の実施により、影響は軽微であると考えられる。

また、大気汚染に関する地域からの要望や苦情等は寄せられていない。

これらのことから、環境保全措置の見直しは不要と考える。

６．１．２　騒　音

建設機械及び工事用車両の稼働台数・期間は補正評価書で想定した範囲内であり、一般的な環境保全対策の実施により、影響は軽微であると考えられる。

また、騒音に関する地域からの要望や苦情等は寄せられていない。

これらのことから、環境保全措置の見直しは不要と考える。

６．１．３　低周波音

建設機械及び工事用車両の稼働台数・期間は補正評価書で想定した範囲内であり、一般的な環境保全対策の実施により、影響は軽微であると考えられる。

また、低周波音に関する地域からの要望や苦情等は寄せられていない。

これらのことから、環境保全措置の見直しは不要と考える。

６．１．４　振　動

建設機械及び工事用車両の稼働台数・期間は補正評価書で想定した範囲内であり、一般的な環境保全対策の実施により、影響は軽微であると考えられる。

また、振動に関する地域からの要望や苦情等は寄せられていない。

これらのことから、環境保全措置の見直しは不要と考える。

６．１．５　水質汚濁

改変面積及び土量並びに基礎工事等の施工内容は概ね補正評価書で想定した範囲内であり、一般的な環境保全対策を実施している。

また、新 146 鉄塔工事用地において、2024 年 10 月の大雨で土砂流出が発生したものの、近隣沢及び下流域への土砂流入は確認されていない。

さらに、水質汚濁に関する地域からの要望や苦情等は寄せられていない。

これらのことから、現時点において環境保全措置の見直しは不要と考える。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

６．１．６　植　物

事後調査の結果、一部の移植個体でシカによる採食や生育環境の変化が確認されたものの、生育継続が確認されている個体も存在することから、現時点において環境保全措置の基本方針を変更する必要がある状況とは認められなかった。したがって、環境保全措置の基本方針（回避・最小化・移植）は維持することとし、環境保全措置の確認のためにモニタリングを実施する。なお、採食の継続又は拡大が確認された場合には、採食防止対策を実施し、その効果を事後調査により確認する。必要に応じて専門家の助言を受け、追加措置の内容を見直す。

1. 事後調査により確認された課題

移植後の生育状況には、種間及び地点間で差が認められた。

- エビネ、ベニシュスラン、コクラン及びゴンズイの一部地点では、シカによるものと考えられる採食痕が確認された。
- ベニシュスラン及びコクランの一部地点では乾燥傾向、ゴンズイの一部地点では周辺植生の繁茂による被圧、ナンバンギセルの一部地点では草地環境の変化が認められた。
- ホンゴウソウは菌従属栄養植物であり、明確な外的要因は確認されていないが、生存率の低下が認められた。

2. 環境保全措置の再検討

環境保全措置の確認は、第 3 章に示す事後調査において継続的に実施する。

事後調査では、対象種及び移植地点ごとに、以下の事項を確認する。

- 対象個体の生存状況及び株数
- 新葉、萌芽、開花又は結実等の生育状況
- 採食痕、踏圧その他の外的影響の有無
- 周辺植生の繁茂及び被圧の状況
- 日照、風当たり及び土壌の乾湿状況
- 生育環境の変化と対象個体の生育状況との関係

採食痕が確認された地点、又は今後のモニタリングにより採食の継続若しくは拡大が懸念される地点については、必要に応じて簡易な囲い等による採食防止対策を実施する。

採食防止対策の実施にあたっては、対象植物の日照、通風及び生育空間を阻害しない構造とし、周辺の動物の移動を著しく妨げない必要最小限の範囲とする。簡易な囲いによるシカ採食防止対策（イメージ）は図 6.1-1 に、設計仕様（案）は表 6.1-1 に示すとおりである。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

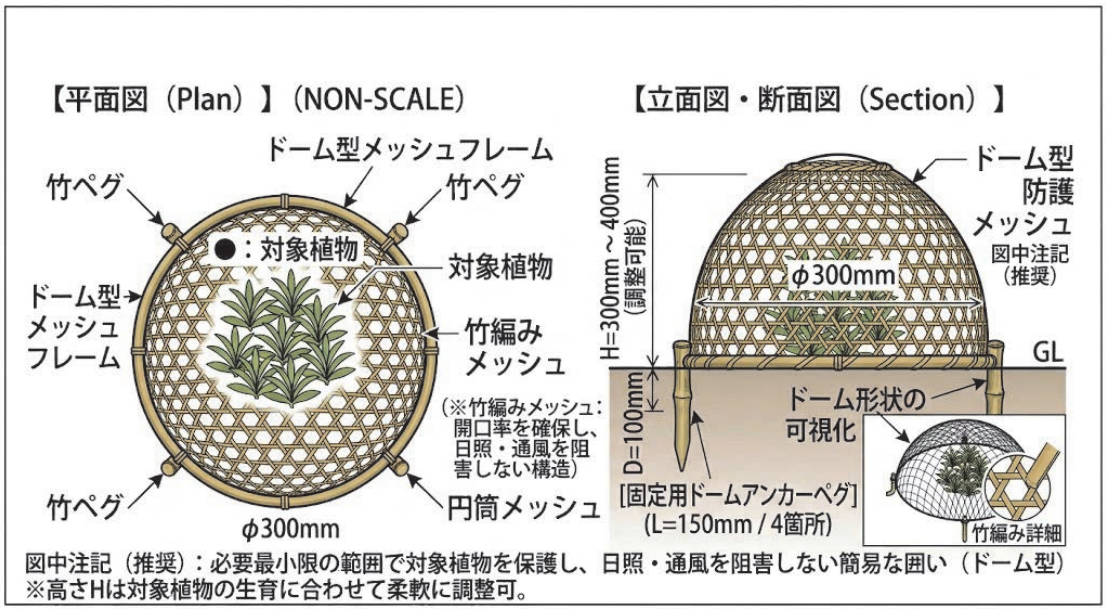


図 6.1-1　簡易な囲いによるシカ採食防止対策（イメージ）

表 6.1-1　設計仕様（案）

要素	設計寸法・仕様	設計根拠
形状	ドーム型 （底面径　φ300㎜）	角型や円筒型に比べ、上部・側面の外圧（風圧、落枝、積雪等）を受け流す構造強度が高い。また、資材長に対して内部有効容積を最大化し、植物の地上部空間を立体的に確保できるため。
地上高　(H)	300～400㎜ （調整可能・参考値）	コクラン等の林床草本（草丈 10～25㎝）を十分カバーしつつ、風倒リスクを抑え、林床景観上の違和感を最小限に留める高さ。
材質・構造	竹編みメッシュ （ザル状ドーム構造）	天然の竹材（割竹・竹ひご等）を立体的に編み込んだ構造。金属やプラスチックと異なり自然林の景観に馴染み、万一の破損・長期残置時も腐朽して土壌に還元されるため、環境負荷が極めて低い。
メッシュ目合	約 15㎜×15㎜ （荒編み）	シカの口腔・舌の差し込みを物理的に遮断可能であり、かつ送粉昆虫の自由な出入りや自然受光・雨水浸透・通風（蒸れ防止）を妨げにくい寸法。
固定方法	固定用竹ペグ（L=150㎜） 外周 4 箇所留め	金属製アンカーボルト等を用いず、現地適応性の高い竹ペグで外周を地中に打ち込み緊結。対象植物の地下茎・根系を傷つけないよう外縁部に配置し、土壌環境を保全する。
根入れ　(D)	約 100㎜ （ペグ押さえ／縁部埋設）	シカが鼻先で下端をめくり上げたり、隙間から口先を差し込んだりするのを物理的に防止するための押さえ深さ。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

６．１．７　動　物

工事実施状況及び事後調査結果において、工事の実施に起因すると考えられる新たな影響の兆候は確認されていない。

また、動物に関する地域からの要望や苦情等は寄せられていない。

これらのことから、環境保全措置の見直しは不要と考える。

６．１．８　生態系

工事実施状況及び事後調査結果において、工事の実施に起因すると考えられるクマタカの行動圏（営巣期高利用域）の利用状況の顕著な変化や繁殖活動への影響は確認されていない。

また、環境類型区分では常緑針葉樹林及び草地の変化が認められたものの、高利用域の利用状況及び繁殖活動は継続して確認されていることから、クマタカの繁殖及び採餌に利用されるハビタット機能は現時点において概ね維持されているものと考えられる。

以上のことから、現時点において環境保全措置は一定の機能を有していると考えられ、見直しは不要と考える。

６．１．９　景観・風景

景観・風景については、第 5 章に示したとおり、工事着手後においても関係地区への周知及び景観眺望点における事前説明を継続して実施している。

また、工事の進捗に伴う景観の変化は生じているものの、景観に関する地域からの要望や苦情等は寄せられていない。

これらのことから、現時点において景観・風景に係る環境保全措置の見直しは不要と考える。

６．１．１０　廃棄物・発生土

廃棄物・発生土については、工事の実施に伴い発生しているものの、補正評価書に基づく一般的な環境保全対策を実施している。

また、廃棄物・発生土に関する地域からの要望や苦情等は寄せられていない。

これらのことから、現時点において廃棄物・発生土に係る環境保全措置の見直しは不要と考える。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

６．２　一部計画変更等に伴う追加検討

６．２．１　新 146 鉄塔工事用地内の土砂流出

新 146 鉄塔工事用地内の谷側斜面（鉄塔敷地の下方）において、2024 年 10 月上旬の大雨により土砂（表層土）が流出した。土砂流出範囲については進展防止対策済である。なお、土砂流出が発生した鉄塔工事用地は、この 1 箇所のみである。詳細は、8.4.1 に示すとおりである。

６．２．２　新 145 鉄塔工事用仮設モノレールの一部計画外設置に係る是正

新 145 鉄塔工事用の仮設モノレールの設置後において、2025 年 7 月に 3 箇所で計画範囲外に設置していたことが判明し、森林法などの許可を得ていた関係行政に報告した。この 3 箇所については速やかに撤去し、原因究明と再発防止策を説明後に是正（計画範囲内に再設置）した。詳細は、8.4.2 に示すとおりである。

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱

© 2026　電源開発送変電ネットワーク㈱